

科目名	建築環境工学Ⅱ	英語科目名		
開講年度・学期	平成25年度・前期	対象学科・専攻・学年	建築学科5年	
授業形態	講義	必修 or 選択	選択	
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15+30)h	
担当教員	佐藤篤史	居室(もしくは所属)	建築学科棟3階	
電話	0285-20-2833	E-mail	a-sato@oyama-ct.ac.jp	
授業の達成目標	授業達成目標との対応			
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件	
	1. 各分野の建築環境工学の知識を関連づけて理解し、技術力を高める。	④	A-2	d(2-a)
	2. 必要換気量の計算及び自然換気量の計算が出来る。	③	A-1	d(2-a)
	3. 換気・通風の計画が出来る。	③	A-1	d(2-a)
4. レベル表示を理解し、基礎的な音響の計算が出来る。	③	A-1	d(2-a)	
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法				
達成目標1および2:前期中間試験(60%以上で評価)および授業内の演習課題(設定水準)				
達成目標3:前期末試験(60%以上で評価)および実測測定レポート(設定水準)				
評価方法				
1. 2回の定期試験の相加平均を8割				
2. 実測調査課題のレポート(課題の提出状況と内容)を2割				
授業内容	授業内容に対する自学自習項目	自学自習時間		
1. 室内空気の汚染源について	予習は教科書関連項目をまとめる。 復習は関連箇所の整理、随時課題出題	4		
2. 必要換気量の計算方法	同上	4		
3. 換気方式の種類と特性	同上	4		
4. 換気と通風の力学・開口部の合成	同上	4		
5. 換気の計算(風力換気)	同上	4		
6. 換気の計算(重力換気)	同上	4		
7. 通風の計画	同上	4		
8. (中間試験)		4		
9. 物理音響学の基礎	予習は教科書関連項目をまとめる。 復習は関連箇所の整理、再計算	4		
10. レベルの合成・距離減衰	同上	4		
11. 室内外の音響実測	事前に測定機器の使用方法を確認。 データを整理してレポートを書く	4		
12. 遮音・透過損失	予習は教科書関連項目をまとめる。 復習は関連箇所の整理、再計算	4		
13. 吸音及び吸音材料の性質	同上	4		
14. 音響計画・残響時間・騒音の評価	同上	4		
(期末試験)				
15. 試験の解説	同上	4		
自学自習時間合計			60	
キーワード	シックハウス 換気量 換気回数 デシベル 透過損失 騒音			
教科書	板本守正他「環境工学」(朝倉書店)			
参考書	日本建築学会「建築環境工学実験用教材」(日本建築学会)			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	環境工学Ⅰ			
現学年の関連科目	建築設備			
次年度以降の関連科目	環境技術			
連絡事項				
課題やレポートは基礎知識修得の機会と考え、課題の範囲だけでなく、幅広く積極的に行って欲しい。				
シラバス作成年月日	平成 25 年 3 月 30 日			